

平成22年度

事業報告

財団法人 大阪国際児童文学館

INTERNATIONAL INSTITUTE FOR CHILDREN'S LITERATURE, OSAKA

平成 22 年度 事業報告

財団法人大阪国際児童文学館は、昨年4月から体制を新たにし、新しい環境のもとで新しい航海に出発いたしました。事業面・財務面とも羅針盤のない全く未知の世界ではありましたが、この1年間、暗中模索しながらも使命感をもって取り組んできました。

事業については、これまでの事業全てを見直し、新しく構築する観点から、財団独自事業の構成、社会的意義、位置づけを考え、あわせて、財団の社会的な認知度向上および財源の確保を図る観点からメールマガジン発行や寄付金募集、他団体からの受託など新規事業にも取り組み、積極的に幅広く事業を展開してきました。

旧児童文学館は、「大阪府立中央図書館 国際児童文学館」として、昨年5月にオープンされましたが、大阪府および大阪府立中央図書館とは、「子どもの読書推進活動支援員派遣事業」など各種の事業等を通じて緊密な連携・協力を図るとともに、所期の目的であります、移転後の「国際児童文学館」が、貴重な資料を保存・活用し、円滑に事業を継承できるよう、当財団として協力するとともに必要な役割を果たしてきました。

とは言え、まだまだ将来への展望が見えない中ではありますが、限られた人員、少ない財源の中で、大要、事業計画・経営目標を達成し、一定の成果を上げることができ、今後の財団運営につないでいくことができたと考えています。それは職員の献身的な頑張りとともに、ボランティアの方々や特別専門員などの協力者、さらに、関係諸団体はじめ多くの方々の善意に支えられた成果でもあり、感謝の念に堪えません。

個々の事業については、平成 22 年度事業計画にもとづき以下に報告します。

なお、年度末の3月11日に発生した東日本大震災に関して、被災した子どもたちに本を贈る運動を企画し、大阪府書店商業組合、毎日新聞社、毎日新聞大阪社会事業団とともに主催すべく、実施に向けて準備を進めたところでもあります。

○役員会等の開催状況

1. 理事会

回	開催年月日	議事内容
第1回	22.4.1	(1) 理事長の選出について (2) 常務理事の選出について
第2回	22.4.30	(1) 評議員の選出について
第3回	22.6.25	(1) 平成21年度事業報告について (2) 平成21年度収支決算について
第4回	23.3.25	(1) 平成22年度収支予算の補正について (2) 平成23年度事業計画について (3) 平成23年度収支予算について

2. 評議員会

回	開催年月日	議事内容
第1回	22.6.18	(1) 平成21年度事業報告(案)について (2) 平成21年度収支決算(案)について
第2回	23.3.18	(1) 平成22年度収支予算の補正(案)について (2) 平成23年度事業計画(案)について (3) 平成23年度収支予算(案)について

I 講座、講演会等を通じた子どもの本の普及活動

下記講座等を、主催事業または講師派遣により実施し、ボランティアとの協働をすすめる。

1. 大人向け講座・講演会

(1) 指導者養成のための講座

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員等への本の選び方や読書活動のありように関する研修、講座のための講師を派遣した。

- ・実施回数：41回 子ども読書活動支援員派遣事業24回を含む（別掲）
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：教員（9回）、文庫・読書活動ボランティアグループ（5回）、司書・学校司書（2回）、その他（2回） 計18回

(2) 保護者や子どもの本に関心のある人へのアプローチ

①講演会の実施

子どもの本への関心を深めたり広げたりするための講演会を実施した。

「読書会 若おかみシリーズ人気の秘密をさぐる

—著者 令丈ヒロ子さんをお迎えして—」（北村武子記念事業）

- ・日時：平成23年2月5日（土）
- ・場所：大阪府立中央図書館会議室
- ・内容：大人を対象とした読書会
- ・講師：令丈ヒロ子（児童文学作家）
- ・参加費：1,000円
- ・対象：教員、保育士、司書、学校司書、読書活動推進関係団体、府民等
- ・参加者：21人

②講座

子どもの本の魅力や子どもと本を共有することの大切さを伝える講座のための講師や審査員を派遣した。

子どもの本を楽しむ会（9回）、保護者向き絵本講座（2回）

大学コンソーシアム大阪平成22年度地域連携モデル事業講座（4回）

第20回箕面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市）

人権教材絵本ガイドブック検討委員会（ちゃいんどネット大阪）

第13回はーと&はーと絵本原作コンクール選考委員会（大阪市教委）

第29回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府）

メディア芸術デジタルアーカイブ事業検討委員会（文化庁）

2. 本と子どもを結ぶ活動

学校等でのおはなし会や読書活動にかかわるワークショップの開催

(1) 学校等でのワークショップの開催

学校等で物語体験ワークショップや絵本作り等を計10件実施した。

大学生（2件）、小学生（5件）、図書館（1件）

日中韓子ども童話交流 2010
第1回出雲こども探検隊（毎日新聞社主催）

(2) 児童養護施設でのおはなし会の実施

大阪府域の児童養護施設でおはなし会と人形劇を開催し、絵本を配布した。

出演：おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと、人形劇団クラルテ

おはなし会 6回、人形劇 3回

*財団法人高津成和会助成金による

(3) 図書館等でのおはなし会の実施

大阪府立中央図書館こども資料室でおはなし会と人形劇を開催した。

出演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと

おはなし会 5回、人形劇 1回

(4) 住宅展示場での街頭紙芝居の実施

住宅を見に来た家族に街頭紙芝居の楽しさを伝えた。

・日 時：5月8日（土） 11時、14時

・場 所：花博住宅展示場広場

・出 演：三邑会

*共催：財団法人 大阪住宅センター

(5) 「おはなしモノレール」の実施

子どもが絵本や物語の世界の楽しさを知り、より本に親しむきっかけづくりと親子のふれあいの機会の創出を目的として、平成19年度から実施している、貸し切りモノレールの中でのおはなし会と彩都での「人形劇」を楽しむ子ども向きイベント「おはなしモノレール」を実施した。

・日 時：11月21日（日）

・定 員：240人（申込者：338人 1.4倍）

・参加費：500円

*協 賛：大阪高速鉄道株式会社、独立行政法人日本万国博覧会記念機構、
阪急電鉄株式会社

3. ボランティアの参加と協働による事業の充実

(1) ボランティア研修講座の開催

・開催回数：3回（自主研修・打ち合わせ研修）

・対 象：平成22年度ボランティア登録者

・開催内容：おはなしの選び方、昔話絵本の研修、おはなし会の打ち合わせ

(2) ボランティア登録者の事業参加

当財団のボランティア研修講座及び人形劇講座を修了したボランティア登録

者に、上記2「本と子どもを結ぶ活動」の各種事業等への参加を求め、協働することによって事業の充実を図った。あわせて、財団事業の広報チラシ配付等についても協力をお願いした。

①おはなしポップ

- ・登録者数：22名
- ・活動回数：13回
- ・活動場所：関西カタルーニャセンター（1回）、おはなしモノレール（1回）
大阪府立中央図書館こども資料室（5回）、
児童養護施設6ヶ所（各1回）

②人形劇サークルぱれっと

- ・登録者数：5名
- ・実施回数：4回
- ・実施場所：大阪府立中央図書館（1回）、おはなしモノレール（1回）
児童養護施設2ヶ所（各1回）

II 子どもの本の文化に親しむ機会の提供

○創作童話・絵本の募集コンクール

「第27回ニッサン童話と絵本のグランプリ」事業を実施した。

- ・応募数 童話2,408点（前年2,224点） 絵本533点（442点）
計2,941点（2,666点）
- ・予備審査 11月19日（金）～22日（月）
- ・本審査 12月11日（土）、12日（日）
- ・表彰式 平成23年3月6日（日）大阪府立中央図書館大ホール

*協賛：日産自動車株式会社

*2010公募アワード「大賞」受賞 公募ガイド社主催

III 教材開発を通じた子どもの読書活動の推進

○「ほんナビきっず」の開発・普及

子どもがインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムを株式会社富士通東北システムズとともに開発し、公開した。

新刊あらすじ・キーワード データ投入件数：964冊

IV 子どもの本を通じた国際交流事業

絵本を通して、諸外国と日本の文化の相互理解を深めるとともに、国内外の研究者のネットワーク構築に寄与し、児童文学及び児童文学研究の促進を図る。

1. 国際児童文学研究賞事業

「国際グリム賞」。世界の児童文学研究に貢献する人々の業績を顕彰することにより、国際的な児童文学研究の振興に寄与する。

平成22年度は、第13回受賞者の選考を行った。

・アンケート	発送	9月4日
	締め切り	10月31日
・選考	第1次選考会議	12月19日
	第2次選考会議	東日本大震災のため23年度に延期

2. リンドグレーン記念文学賞（ALMA）受賞候補者の推薦

児童文学に関する国際的な賞であるALMAの受賞候補者を推薦した。

この賞は、2002年児童文学作家アストリッド・リンドグレーンを記念して、スウェーデン政府が設立した。世界中の子どもが文学への関心を深めること、「子どもの権利」を世界レベルで守っていくことを目的とし、毎年、作家や画家、ストーリーテラー、読書普及活動団体などに贈られる。世界各地に推薦団体がある。

3. 情報、資料交換

当財団の活動及び日本の児童文学の状況について紹介した「IICLO REPORT」をホームページで、海外の児童文学専門機関等に提供するとともに、ホームページで当財団の事業などの情報を提供した。また、海外の関係機関と情報、資料の交換を行った。

資料と情報の交換対象機関

- ① 国際児童文学学会（オーストラリア）
- ② 国際児童図書評議会（カナダ）
- ③ フィンランド児童文学研究所
- ④ 国際シャルル・ペロー研究所（フランス）
- ⑤ ミュンヘン国際青少年図書館（ドイツ）
- ⑥ グリム博物館（ドイツ）
- ⑦ スウェーデン児童文学研究所
- ⑧ スイス児童および青少年メディア研究所
- ⑨ Seven Stories（英国・子どもの本センター）
- ⑩ 建国大学 童話と翻訳の研究所（韓国）
- ⑪ 浙江師範大学 国際児童文学館（中国）
- ⑫ アメリカ議会図書館（アメリカ合衆国） 等

4. 国際講演会の開催

アジアの絵本シンポジウム「絵本は国境を越える 中国語圏の絵本の現在」

- ・日 時：平成23年3月13日（日）
- ・場 所：大阪市西区民センター会議室
- ・講 師：高 明美（台湾・児童文学翻訳者、編集者）
- ・聞 き 手：成實朋子（日本・児童文学研究者）
三宅興子（当財団理事長）
- ・参加者数：40人
- ・参加費：1,000円

- ・賛助企業：関西電力株式会社、近畿日本鉄道株式会社、サントリーホールディングス株式会社、武田薬品工業株式会社、パナソニック株式会社、阪急電鉄株式会社、株式会社富士通東北システムズ、株式会社富士通マーケティング、ムサシ・アイ・テクノ株式会社

V 大阪府子ども読書活動推進連絡協議会への参画

大阪府が推進する「子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもの読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内のすべての子どもたちが本を読む喜びを味わい、豊かな感性をもつことができるような環境づくりに努める。そのため、標記協議会に委員として企画立案に参画するとともに、下記事業に講師を派遣した。

①大阪府子ども読書活動推進連絡協議会

「第2次大阪府子ども読書活動推進計画」策定のための会議に出席した。(2回)

②子どもの読書推進活動支援員派遣 大阪府立中央図書館主催

要請のあった機関・組織に対し、講師を派遣し講座を行った。

- ・実施回数：24回
- ・講座内容：本を選ぶ・本を読む・新しい本の紹介・読書活動について等
- ・対象：保育士(7回)、教員(6回)、学校司書(4回)、ボランティアグループ(7回)

VI 研究及び出版等の企画事業

1. 共同研究・調査の実施

当財団職員と子どもの本に関わる分野の専門家が学際的に協働し、研究を行う。研究成果については、学会や「紀要」で発表するほか、当館のホームページに登載するなど広く普及し活用を図る。

(1) 明治期児童雑誌研究プロジェクト

『少年世界』などの明治時代に出版された児童向け雑誌について、平成20年度文部科学省科学研究費助成事業で作成した、明治時代の雑誌の内容細目データを活用しながら外部研究者とともに研究を行った。

- ・研究会(3回 7/31, 9/19, 12/25)
- ・日本児童文学学会第49回研究大会ラウンドテーブル
『少年世界』の総合的研究 — 『少女世界』創刊の影響—
(11月14日、梅花女子大学)
- ・『国際児童文学館紀要』(論文4本)

(2) 「明治・大正期における児童出版文化史」の研究(仮題)

故・南部新一氏(元博文館編集者)旧蔵資料にある巖谷小波作品を中心に、調査研究を外部研究者とともに行う。実施にあたり、補助金を申請した。

- ・研究会(4回 6/26, 8/13, 2/12, 2/23)
- ・科学研究費補助金申請(23年度) 基盤研究(C)

研究課題：明治・大正・昭和前期における児童出版文化史の研究 元博文

館編集者の書簡調査から
申請額：H23～25年度 4,981千円

2. 出版企画・展示企画

児童文学・文化振興のため、次のとおり出版・展示事業を実施した。

(1) 「第26回ニッサン童話と絵本のグランプリ」受賞作品の出版

- ・童話大賞受賞作品 『トンノのひみつのプレゼント』
- ・絵本大賞受賞作品 『てんのおにまつり』

BL出版(株)と提携 平成22年12月刊行

(2) 明治大正期の貴重資料のレプリカ、復刻版作成等

- ・『コドモノクニ名作選』アシェット婦人画報社(2010年8月刊)の企画協力
- ・『コドモノクニ名作選 VOL.2』アシェット婦人画報社(2011年3月刊)の企画協力

(3) 財団発行資料の販売

「国際児童文学館紀要」や論文集等を販売した。

アジアの論文集：13冊、目録：6冊、紀要：14冊

(4) 子どもの本に関わる企画

- ・「進研ゼミおすすめ本1000冊」ベネッセコーポレーションから受託
推奨本600冊を選定し、1000冊分の子ども向き紹介文を作成した。

3. 「国際児童文学館紀要」24号の発行(北村武子記念事業)

論文の公募を実施 論文1本、研究ノート1本を採用

特別研究員および当財団職員による論文 4本 計6本掲載

4. 特別研究員制度の活用

財団が企画・実施する研究に対して、共同・協力して研究を行おうとする外部研究者を特別研究員とする。

今年度は7名。上記1の共同研究、『紀要』への寄稿等の協力を得た。

VII 児童文学等に関する図書、記録その他の資料の収集

児童書、および児童書に関する資料について幅広く寄贈を受けた。寄贈された資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継いだ。

- ・日本及び外国の児童図書
- ・児童文学・児童文化に関する研究書
- ・上記についての雑誌、新聞等の逐次刊行物

受入件数：図書2,569冊、雑誌3,275冊、その他資料732点 計6,576点

Ⅷ 子どもの本の文化の振興・発展に関する事業その他

企業や支援者・団体等と連携を図り、子どもの本の文化の振興・発展に関するさまざまな事業に取り組んだ。

1. 情報発信事業

(1) ホームページの作成

ホームページをリニューアルし、以下の活動を行った。

- ① 当財団の事業、研究成果などの紹介
- ② 「ほんナビきつず」の管理・運営
- ③ 「日本の子どもの本 100 選」の管理・運営
- ④ 国内の児童文学・児童文化関連事業の情報収集・発信

(2) メールマガジンの発行

平成 22 年 9 月からメールマガジンを発行（毎月 1 回、20 日頃）。

23 年 3 月末現在 登録会員数：4 6 2 人

2. 広報活動

(1) 報道機関等への情報提供

報道機関等へ、事業等について積極的に情報提供を行うほか、大阪府のホームページなどの広報媒体への資料提供を行った。

(2) 広報刊行物の発行

財団の活動や事業を紹介したパンフレットを作成し、広報に努めた。

3. 寄付募集

財団事業を充実させるとともに、児童文学に関わる方々や企業・団体とともに事業展開を進めるため、財団を支援いただけるように寄付を呼びかけた。

開始時期：12 月 18 日（土）

平成 22 年度実績 1 4 3 件 1, 6 1 0, 9 8 4 円